

千葉県森林インストラクター会 会報 2002.9(No. 2)

子ども樹木博士



第54回全国植樹祭
協賛事業として、
子ども樹木博士を
実施しました。

8月8日(木) 久留里城周辺の国有林を会場にして子ども樹木博士が開催されました。平成15年に千葉県で開催される第54回全国植樹祭の協賛事業として、日本樹木医会千葉平成支部と千葉県森林インストラクター会の主催、千葉県森林管理事務所と君津市教育委員会の後援により子ども樹木博士が開催されたものです。

== 「子ども樹木博士」実施報告 ==
小池英憲

1. はじめに

8月8日、快晴猛暑の中、君津市森林交流体験センター、久留里城周辺の国有林を舞台として「子ども樹木博士」を開催した。参加者は県内10地区の郡・市の小学生32名と付き添い者20名合計52名とスタッフ25名の参加があった。計画では100名の参加を予定していたので半分にも満たない参加者で募集方法を検討する課題も残ったが、100人の応募があった場合、今回のようなきめ細かな対応は出来ない面も感じられた。

いずれにせよ、事故もなく参加した子ども達が日頃体験できない貴重な体験が出来た事は開催の意義があったと思う。



葉っぱを手に解説する國安さん

2. 「子ども樹木博士」の制度と実施内容

「子ども樹木博士」認定活動は日大の木平勇吉教授が農工大で実施されたのが最初であると言われている。その後全国森林レクリエーション協会内に事務局が設けられ「子ども樹木博士」認定活動が全国で実施され、千葉県内で組織的に運営されたのは今回が初めてである。

一般的な進め方として、森の中(公園等の樹林地でも可)を小グループに分かれて散策しながら、決められた樹木の名、由来、特徴、用途等を説明し、実際に見て触れて5感を通して感じてもらう。説明の中に、森林の働きや多様性、人々の生活との関わり等の紹介も交える。一通り説明が終わった後、説明を受けた樹種の枝葉のサンプルを机の上などに並べておき、その樹木名を解答し、正解の数により段級位を参加者に認定書として与える。



試験準備をするスタッフたち

3. 千葉「子ども樹木博士」の実施内容

1) 準備期間

今回の企画は、樹木医会と森林インストラクターの共同主催と言う事ではじめられた。

準備は今年の4月頃から始まり本番までに開催地で4回の打合せを行った。

主な打合せ内容として、試験樹種の選定、PR方法、樹木説明スタッフの人选、室内試験の実施方法、役割分担等の細かな取り決め事項が協議された。

内部の打合せと平行して、開催場所の管理者である君津市農林整備課、林野庁千葉森林管理事務所の協力をお願いした。尚君津市教育委員会、林野庁千葉森林管理事務所の後援及び第54回全国植樹祭協賛事業の申請業務を行った。

対外的なPRはA4版とB5版のチラシを作成し、地元を中心として学校、公民館等に配布し広報としては君津市、読売新聞、ミニコミ誌、新聞の折込みチラシ等で行った。

・ 配布資料の作成

配布資料として、出題樹木名の位置を記した現場の案内地図と30種の樹木写真をカラーで作成し、樹木写真は応募があった人に前もって送った。

・ 現場の準備

出題樹木は、2次林の植生として特徴ある物を30種選び、参加者が確認出来るように大きな樹名板を付けた。樹名板は参加者が前もって勉強できるように開催日の20日前から設置した。

出題樹木選定にあたっては樹木名のチェック、



試験風景

説明内容がスタッフを中心として協議され、説明方法についても現地で予行練習を行った。

2) 開催当日

屋外の会場は前もって準備できていたが、室内の試験会場に枝葉を用意する準備は当日行われた。樹種によっては触るとカブれる物があるのでビニール袋に包んだり、モミジ等はすぐ萎れるので花瓶に差したり展示方法に工夫がなされた。又試験途中で萎れが見られた、ケヤキ、イヌシデ、ガマズミ等は新しい物と取替えを行った。

参加者の受付は午前9:00分と12:30分の2回に分けて行った。

グループ分けは小学生5~6人に付き添い者を入れて10名程度を1班として、説明者1人、手伝い1人(時間管理、安全管理、説明補助等)の2人体制で認定書授与が終わるまで責任を持って案内した。

最初のスタートは9:30分で、20分間隔で出発し、全体の工程は森の散策90分、室内試験と認定書授与30分の約2時間であった。

説明者と手伝いの連携が良く、全体の時間の遅れはなかったが、試験会場で混雑があったので出発間隔時間等の細かな調整が必要である。

3) 試験の結果

葉と枝だけで判断する試験は難しすぎるとの意見が大勢を占めていたが、結果から推察すると予想より回答率が高く全員健闘していると言える。出題は30問で、0~30の正解数を10級~1級、1段~3段の13段階に分けて認定を行った。



認定証授与

最高は26問正解の3段、0回答はなく1問正解の10級が最下位で、小学1年生で19問正解の生徒がいたのには驚かされた。小学1年～6年までの平均回答率は10.7/30問で高学年ほど高い傾向にあるが、小学1年生に高回答者がいるため5年生に続く高回答率となった。

4. 最後に

今回の企画は樹木医、森林インストラクター、千葉森林管理事務所、君津市農林整備課とハード、ソフトの両面から最高の組み合わせによる企画であったと思う。

準備作業が綿密に行われていた事と、開催当日のスタッフ全員の手馴れた連携により、事故もなく参加者の満足行く会が運営出来たと思う。

説明スタッフのわが子を諭すような説明、付き添い者の試験会場での心配そうな眼差し、認定書授与を受ける時のやはりにかんだ子どもたちの笑顔、「子ども樹木博士」の運営を通じて多くの事を発見し学んだ気がする。

募集の方法、試験会場の設営、他のゲームとの組み合わせ等反省点、改善点が沢山あると思うが、今回の事を出発点として今後より良い森林レクリエーションが行えれば良いと考えている。

最後になりましたが、お世話になった関係者及びスタッフの皆様にお礼申し上げて事務局からの報告としたい。



== 「子ども樹木博士」を終えて ==

寺嶋嘉春

立秋のとはいえ、快晴猛暑の中、4月以来準備してきました、「子ども樹木博士」が無事終了しました。樹木に関しては最高の豪華スタッフによる企画であり、参加した32名の子どもたちにとって、なかなか経験しがたい夏休みの貴重な思い出とするができたと思われま。

また、企画準備に当たったスタッフにとっては、準備を通じて、各組織との人的な交流や、協力・連携を進める基盤ができたこと、企画の手法について経験を深めたこと、子どもたちに樹木を印象付ける説明に工夫を凝らすことにより、スタッフ自らの樹木と自然についての認識を深めることができたこと、などなど得るところが大であったといえると考えます。いろいろな側面からの評価について、さらに、皆様のご意見・ご感想に耳を傾けて、まとめることいたします。

手元にお預かりしている、32名の子どもたちの解答用紙をみると、子どもたちが一生懸命樹木について考えている様子が目に浮かびます。詳細な分析は、別途行う予定ですが、気がついた点は以下のとおりです。

1. 正答率が高いのは、カクレミノ、ホオノキ、クリ(イガ付)、サカキ、ヒサカキ、イロハカエデ、エンコウカエデ、ヒノキ、スギなど。

2. 正答率が低いのは、ヤブニッケイ、ケヤキ、ムラサキシキブ、ハリギリ、ヤブコウジ、コナラなど。正解が一人も無かった樹木は無く、全員の力を合わせれば全問正解であった。

3. スギとヒノキ、サカキとヒサカキ、クリトクヌギ、イロハカエデとエンコウカエデなど、セットで覚えた樹木の正答率が高かった。

4. 最高点は27点(3段)であった。

5. おおむね半数以上の樹木が正解であった、初段以上は15名であり、予想より低学年の参加が多いことを考慮すると、非常に高い理解度であると考えられる。

今後も、関係者の皆様のご協力をよろしくお願いたします。以上、取り急ぎ、皆様への御礼、概況等ご報告いたします

会員研修報告

当会初のフィールド研修会を開催しました。

＝ 房総丘陵・清和県民の森の森林 ＝
望月力智



コース途中 307mピークからの眺め
さる6月8日(土)、当会がフィールドで行う初めての研修会が、「県立清和県民の森」の一角、通称「笹郷山コース」を利用して行われました。講師には、千葉県生物学会会員の藤平量郎先生をお迎えし、参加者は17名(うち樹木医会1名)でした。

私たちの住む千葉県・房総丘陵の森林は、低標高にもかかわらず、「垂直分布の寸詰まり現象」など、非常に興味深い状況が見受けられます。房総丘陵を代表する森林の一つ、清和県民の森の森林を観察しながら、房総の森林について理解を深めることを目的とし、同時に、当会のホームフィールドとしての可能性を考える機会としました。

当日は晴れて、初夏の風が心地良い一日でした。午前9時に森林館駐車場に集合し、町原会長のあいさつの後、早速藤平先生の案内でコースに入りました。同コースでは、冷温帯性の植物としてアオハダ、アズキナシ、スズタケ、フサザクラ、モミ、ツガなど、暖温帯性の植物としてカゴノキ、タイミンチバナ、クロバイ、バリバリノキなどが観察されました。このように冷温帯性の種と暖温帯性の種とが共存してい

ることが、房総丘陵の植物相の大きな特徴の一つです。同コースでは特に温帯系のスズタケと熱帯系のウラジロの共存について、藤平先生が強調されてました。また、暖温帯性の植物の分布から、房総は西南日本の植生の東端と言えるということです。

笹郷山付近西側支尾根の、多数のモミの枯木群はとてもショッキングな光景でした。これは、同所では土壌が浅く(14cm程度)、1994年の夏の猛暑と少雨による乾燥が原因だろうとのことで、主尾根上の土壌が厚い(34~50cm)モミ林は健全だということでした。

「寸詰まり現象」の象徴であるヒメコマツは、今や絶滅の危機に瀕していますが、この日のコースでは、その現状を目にすることはできませんでした。

午後2時半頃に森林観察を終了し、「木のふるさと館」広場で、フリートークの時間を設けました。今回の研修会の感想は概ね好評だったようですが、もう少し歩きやすいコースで初学者的内容を望む声もありました。ホームフィールドとしての活用については、県民の森の各コースを歩いて経験と知識を蓄積し、それを発展させようとの意見が大勢を占めました。秋の再企画を望む声も聞かれました。

豊かな森と川、遊歩道やキャンプ場、木工室など、これだけ条件がそろったフィールドは、千葉県では他にありません。清和県民の森をただの森林空間としておくのではなく、是非、豊かな森林体験ゾーンとして活用していきたいと痛切に思います。



フリートークのもよう

カヤノ平と志賀高原

夏のカヤノ平と志賀高原

菅野興文

7月17日(水)18日(木)1泊2日の行程でカヤノ平と志賀高原の夏山を参加者と一緒に満喫してきました。天気予報どおりに関東地方の梅雨は明け、青く澄んだ夏空のところどころに白い雲を見ながらの、夏山行でした。

初日のカヤノ平は足慣らしの行程です。散策が始まるころは、雨傘をさす人の姿もちらほらと見られましたが、ブナ林に見とれ地元案内人の話を聞いているころには薄日が差し始め、湿ったぬかるみの道端にズダヤクシュが白い小さな花を点々と見せていました。

最終目的地、北ドブ池湿原に差し掛かったころには、白い入道雲を浮かべた青空に、くっきりとした緑の稜線を示した山々を背景に、湿原一面に咲き誇るニッコウキスゲを、木道を歩きながら堪能することが出来ました。湿原はサワラン、トキソウ、タテヤマリンドウ、オウレイジンソウ、エンレイソウ、トリアシショウマ、ヤグルマソウ、歩を進める毎に次々と美しい姿を見せてくれました。

その夜は、まるでスイスの旅を感じさせるようなロッジの雰囲気の中、高度2300mで焼いたパンを食べながらの夕食に皆さん感激の様子でした。食後は宿のご主人を囲んで、志賀高原の昔話に花を咲かせ、夜もふけての解散になりました。

翌朝、沢山の早起き組みは青紫の球果をつけたオオシラビソ、シラビソそれにトウヒの原生林に囲まれ、360度の見晴らしのきく横手山山頂でもある宿の庭先で、合気道と太極拳で早々に準備運動を済ませ、焼きたてのパンで朝食を済ませました。今回の目的地志賀山へ向けての出発です。冬には積雪5~6mの上に一部を覗かせる針葉樹を左右に見ながら、少し季節が遅ければ辺り一面ヤナギランで埋め尽くしたグレンデを下る快調な滑り出しです。

少し高度を下げたところで、コメツガの球果を足で踏み潰し、ネガマリダケの穂先を手で払



ブナの巨木「森太郎」

いのけながら、ふと気がつくとゴゼンタチバナがあちこちに白い花を咲かせています。針葉樹林帯からいつのまにかダケカンバを主にした落葉樹に辺りはなっています。ルリビタキ、メボソムシクイが時々静けさの中に遠く、近くにウグイスはあちこちで、耳にしながらひと汗かいたところが2000mの鉢山山頂です。200m下ったところがその昔、志賀山噴火で出来た四十八池高層湿原です。70近い池をくまなく散策できる木道が整備され、風にゆれるワタスゲのまにまに浮かぶ水生植物を堪能するグループと再度2000mの志賀山山頂を目指すグループに別れ行程は進みます。針葉樹林帯を抜け、五葉松の群落を過ぎると志賀山山頂です。5m高い裏志賀山からは大池に写った青い空に浮かんだ白い入道雲をコバルトブルーの湖水に見ることが出来ます。

ひょうたん池で全員が合流し、最後の目的地に向かい、緩やかな下り坂のハイキングコースをのんびりと今日の山行きの思いに談笑を交え、緑一杯の天然林の中をバスが待つ木戸池に向かいました。

活動報告(2002.6~8)

総合学習事業(國安)

滝野中学校里山学習

日時 平成14年6月15日(土)10~13時

場所 里山学習林、周辺水田、校長室

参加者 滝野中学校 青山校長、久保田先生、里山実行委員3名(3年生)、村役場生涯学習課 出山・神崎・渡辺氏、白井南小学校 河邊先生、エコモの会(トンボ、ホタル、メダカを呼び戻す地元民の会)3名、森林インストラクター(講師)野間・湯本・遠坂・國安

(オブザーバー) 村木

現地観察

- ・生徒実行委員中心に、エコモ会員の観察指導。今回は特に学習林隣接の放置休耕田に手入れをし、導水のうえ、トンボやメダカなどの棲む自然を復元できないか、追加観察。
- ・休耕田はセイタカアワダチソウに帰化アブラムシびっしり、ハンゲショウの白葉みる。
- ・途中の水路にはカワニナが大きく成長、シジミを見つける。ニホンアカガエル泳ぐ。
- ・途中ヒメヤブラン、テリハノイバラの花満開、コウゾ、ニガイチゴの実食べる。クマヤナギの実少し赤み帯びる。
- ・学習林内は雨後の精气。クマノミズキ咲く。ゴンズイ枯木のアラゲキクラゲ柔らかくたくさん生え、生徒は感触をたしかめ、大収穫を喜ぶ。
- ・観察路の追加作設については、林内の観察ポイントをさらに調査のうえ、必要に応じて整備する。
- ・帰途野鳥観察、観察の仕方を河邊先生が指導、近くにセッカとまり鳴く。

打ち合わせ

- ・学年ごとに里山学習課題のしぼりこみが進行している。ハナイカダ、ウグイスカグラ、カエル、危険生物、さとやマップ、里山に入ると気持ちが変わる理由、など多数の課題からグループをつくり追求の仕方を検討しているところ。
- ・里山整備委員会の立ち上げ。学校、PTA、地元民による継続的な里山整備ができるような組織づくりを進めている。
- ・中学校、地元民を対象とした里山観察会を、夏(7/27)、秋(11/2)、冬(2/8)に計画しており、森林インストラクターに講師を依頼したい。(村・学校)
- ・森林インストラクターは、毎月1回の学習林下見・学習指導のほか、同上観察会の講師を了承。

滝野中学校里山学習林見回り

日 時 平成 14 年 8 月 16 日 (金) 10 ~ 13 時

場 所 滝野中学校里山学習林、校長室

参加者 滝野中学校青山校長、森林インストラクター(講師)野間・湯本・遠坂・國安

打ち合わせ

- ・総合学習(環境)の年間計画では、森林インストラクター(講師)による二学期の全校生徒現地指導を9月に予定していたが、変化のある秋になるべく近い10月中下旬(15~18日又は22~24日のう3日間)に変更、学校側で確定のうえ講師に連絡する。
- ・10月の学習日にむけた現地下見は、9月20日(金)10:00~に行う。
- ・中学校生徒の里山学習課題への取り組みは、グループごとに行われているが、インストラクターの指導内容をどのように対応させていくか、次回までに検討する。

現地見回り

- ・途中、水田に水揚げをしている地元農家の方から、昭和30年頃までの自然の豊かさの懐古談を聞く。「子どものころ、この田んぼの上で泳いだりしたもんだ。ウナギもオニユリも珍しいと思うものはもうなにも無くなってしまった。」と嘆く。
- ・里山学習では、自然観察だけではなく、このような話を聞き取ることも大切。
- ・学習林の観察路はかなり整備され、却って一般の住民の入林が容易になったことから、地権者との関係を含め入林制限をどうするか、課題となる。
- ・ウワミズザクラの実は黒くなりはじめ、クリ、アケビもふくらむ。コナラのどんぐりはやっと形ができかかる。
- ・ノウタケは胞子を出しつつ次第にスポンジ状に変わる。アラゲキクラゲがエゴノキの枯木にも発生。あとはコテングタケモドキのほか毒キノコらしきものばかり。
- ・夏は虫類の世界。褐色のコカマキリ、トンボはハグロトンボ、ナツアカネの雌雄。子どもの喜ぶザトウムシ。コガネムシの仲間。クロアゲハやチョウ舞う。
- ・林内で青山先生が”背中に白いスジのようなものをつけたヒグラシ”をかなり見かけるがあれは何か、との問いに、樹幹にとまっていたセミを遠目に見て、当初カビか病気かとい

いながら、地面で動けなくなっているヒグラシをつかまえ、ルーペでのぞいてみてびっくり。セミの胴体の背中部分に、なんと長さ4～5ミリの白い蛆虫（背が白い綿毛様に覆われ、口から糸を吐く）が、5匹もびっしり寄生。かわいそうにとその虫をはがしてやると、動けなかったセミがパタパタと飛び去った。

さて、この虫はなにものか？正解は、セミヤドリガの幼虫と判明（野間・美濃和情報）。

- ・ 水稲が実りはじめ、水田はほとんど水を落としているため、水生動物はあまり活発ではないが、トウキョウダルマガエル、ザリガニ、ドジョウ、カワニナ、シジミをみる。
- ・ 水路に沿い、ヤマハギ、マルバハギ、ツクシハギ？咲く。造成地にコマツナギも。

昼講座（遠坂）

森に親しむ講座実施報告

テーマ 「里山と水辺の植物」

実施日時 平成14年6月12日10:00～12:00

場所 千葉県青少年女性会館

講師 山田 寛治

FIC参加者 遠坂、石井、海野、和波、町原、野間、平尾、小林、佐山

講座受講者 31名

概要 OHPで約50枚の図・写真を用い、また房総の代表的な水草の現物を持参して、受講者に手で触れてもらいながら話をしました。

持参した水草の一覧

湿性植物 セリ

抽水植物 オランダガラシ、オオフサモ

浮葉植物 トチカガミ、アサザ、ヒルムシロ

沈水植物 インバモ、ホザキノフサモ、クロモシ
シャジクモ

浮遊植物 タヌキモ、マツモ

テーマ「21世紀の森を訪ねる」

実施日時 平成14年6月26日9:30～14:30

天候 小雨

参加者 26名

講師チーフ 山田

サブ 石井、渋谷、湯本、和波、佐山

概況 「21世紀の森」は千葉の里山の典型ともいえる谷津田のあとです。田んぼは埋められて芝生になってしまいましたが、斜面林は里山

の名残をとどめています。

まず、「21世紀の森の昔と今」(山田)「谷津田のなりたち」(渋谷)「谷津田の生き物」(石井)について説明したのあと、斜面林 みどりの里(田んぼ・溜め池) 野草園(湿地) 昼休み 自然生態園をまわり観察しました。

歴史から見た日本の森林 part3

実施日時 平成14年7月10日10:00～12:00

場所 千葉県青少年女性会館・研修室

受講者数 25名

講師 町原 亨(以下4氏の敬称略)

庶務担当 遠坂、和波、渋谷 observer 湯本

概要 室町～安土桃山～徳川時代初期の間の、一般社会情勢と、森林資源消費状況の関連性についての考察。当時の用材の収穫対象は殆ど天然性林であるとして、城郭や城下町の建設ラッシュによる、天然性林中の高木の著減、人口増加も一因であるが、農業技術の進歩により施肥用の広葉樹2次林の需要急増等から森林資源の枯渇についての危機感が芽生え、木材の恣意的な消費から、利用の規制へと森林に対する見方が変遷し始めた。しかも人工造林の第一歩として、今の優良林業地と言われる地方から、播種、挿木両方の育苗と、小規模ながら造林作業も見られるようになった。上記の大きな流れを、年表記載の事項により検証する。

もりこん(海野)

(1)「もりこん24」平成14年5月16日(木)

18:45～20:45 出席者13名(うち一般3名)

・話題提供:町原 亨氏『標高3600mの森林限界』 サッカー遠征で訪れた台湾、新高山登山記

(2)「もりこん25」平成14年6月27日(木)

18:45～20:45 出席者17名(うち一般4名)

・話題提供:野間 元彦氏『千葉県内自生の木本植物388種について』千葉県自生の木本植物388種を主な資料より整理しました。

寺嶋 嘉春氏『国指定天然記念物:笠森の森について』笠森観音の境内には、典型的な照葉樹林が残されており、森として、国の天然記念物に指定されています。

(3)「もりこん26」平成14年7月25日(木)

18:45~20:45 出席者13名(うち一般3名)
・話題提供:町原 亨氏『年表で見る日本の森林』

文献から読み取る日本の森林の変遷史。いまのところ、大和時代~江戸前期まで完成。

【持ちネタ紹介】part1スギ、part2ヒノキ・サワラ、part3・マツのあとは、しばし、お休みです。

各講座で配布した資料は省略しています。ご希望の方は過去メーリングリストの添付資料または、直接チーフ担当の方までお問い合わせください。

今後の予定

【後期講座の予定】

- きのこ入門 遠坂 9月4日(水)
 - きのこを探そう(草深の森) 平尾 9月14日(土)
 - 森林を支えるブナ科の樹木 石井 10月2日(水)
 - 森に親しむコツ~知識より感性~(21世紀の森) 渋谷 10月23日(水)
 - 森と水の話 町原 10月30日(水)
 - 海を育む森林の話 湯本 11月20日(水)
 - 竹の話 遠坂 12月4日(水)午前
 - 竹細工 小林 12月4日(水)午後
- 1・3・5・6は信篤公民館(原木中山駅下車徒歩2分)で午前10時~12時。
2は北総開発鉄道千葉ニュータウン中央駅9時半集合。
4は武蔵野線新八柱駅9時半集合。
7・8は千葉県青少年女性会館10時~15時千葉都市モノレールスポーツセンター駅徒歩3分。

【もりこん】

毎月1回、木曜日開催。

9月以降は、ただいま、企画(これから、あちこち、声をかけるところ)です。一般の方も、続けてきて下さっていて、有り難いことです。インストラクターも一般の方も、同じように有意義な会にして行きたいと、思っています。

各講座の連絡や下見の日程などは、メーリングリストで随時流されます。参加希望者をご確認のうえ担当者までご連絡ください。

☆☆☆事務局連絡☆☆☆

メーリングリスト加入のご案内

メーリングリストへの加入は済んでいますか? 活動連絡や有益な情報がいち早く入手できます。また、事務合理化、連絡迅速化にもつながりますので、ご加入よろしくお願ひします。

【加入方法】

千葉県森林インストラクター会のメーリングリストに参加希望する方は Forest-I-Chiba-subscribe@egroups.co.jp にメール願ひます。

FreeMLから確認のメールが入りましたら、返信し、手続きは完了します。

Forest-I-Chiba@egroups.co.jp のアドレスが案内されますのでこのアドレスに連絡たいメールを送信すると加入者全員に配信されます。

なるべく多くの会員に参加を願ひし、情報の円滑、迅速化を図りたいと思います。

経費は無料です。

【救急箱の管理ルール】

千葉県森林インストラクター会では、救急箱1組、ポーチタイプの救急セット2組用意してあります。活動の際には下記のルールを徹底しながら、救急箱をお使いください。

- 常に所在を明らかにするため、預かった人は、次の人の渡したとき、全幹事にその旨メール(メーリングリスト可)する。
- 紛失した場合、最終メールに出ている受取人が責任を持つ。
- 期末に、管理責任者が内容をチェックし、補充・更新を行う。

千葉県森林インストラクター会会報

2002年9月1日 発行第2号

年4回発行予定(6月・9月・12月・3月)

発行人:町原 亨

編集スタッフ:秋山 進、鳥海 翔

連絡先(町原):船橋市夏見台4-19-1-406

TEL&FAX:047-439-3016 〒273-0866

Eメール:machihara@mx5.ttcn.ne.jp